

第3章 犯罪の現状

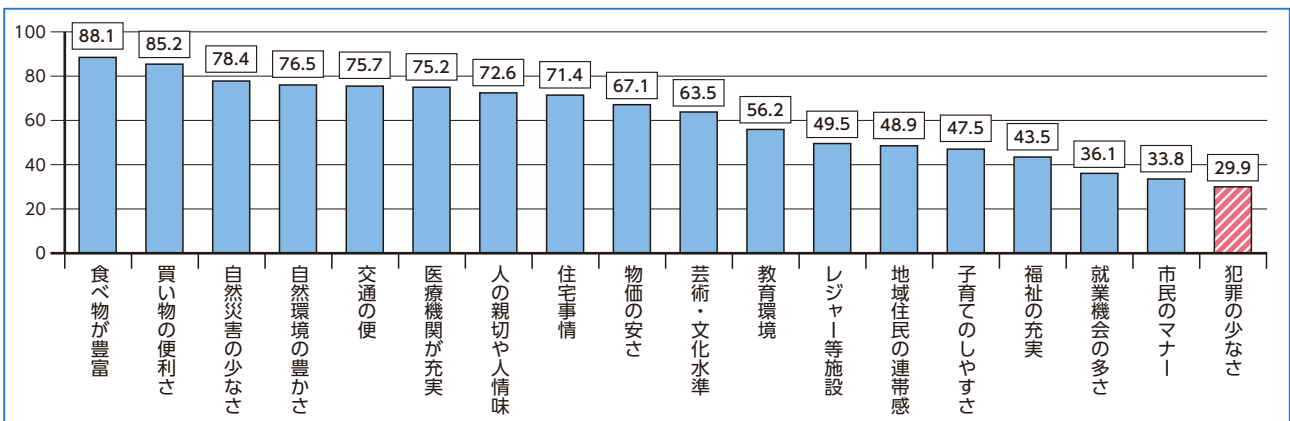
1 防犯に関する市民意識

平成25年度に実施した「市政に関する意識調査」の「福岡市の都市環境等に関する満足度」の中で、「犯罪の少なさ」に対する満足度は29.9%と各項目中最も低くなっています。

また、「犯罪の少なさ」に対する不満度については、55.1%と各項目中2番目に高くなっています。

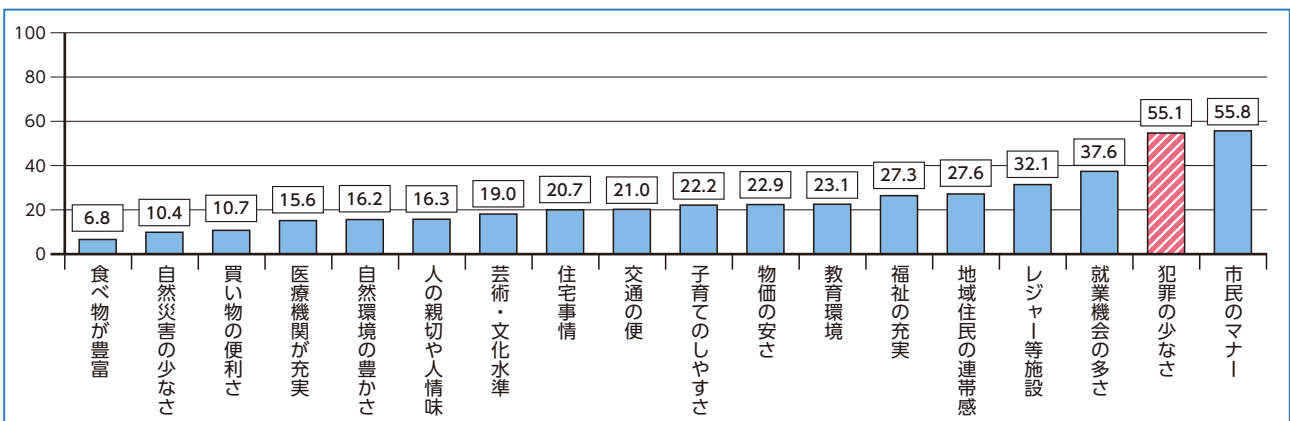
〈図表1〉「福岡市の都市環境等に関する満足度調査」における「満足している」割合

(%)



〈図表2〉「福岡市の都市環境等に関する満足度調査」における「不満がある」割合

(%)

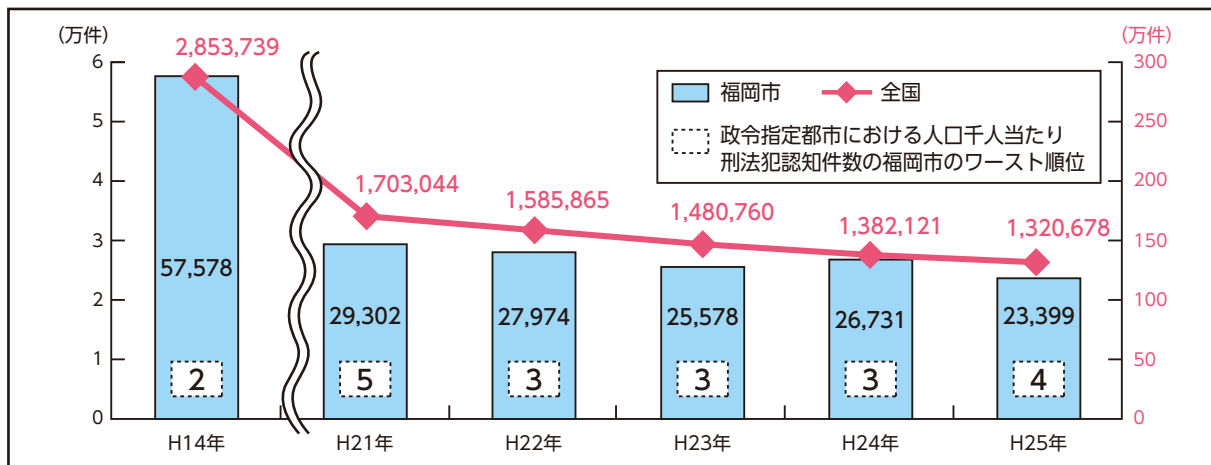


2 刑法犯認知件数の推移

福岡市の刑法犯認知件数は、平成14年の57,578件をピークに減少しており、平成25年は23,399件とピーク時に比べ約6割減少していますが、刑法犯認知件数を人口千人当たりで見ると、福岡市は政令指定都市中ワースト上位で推移しているなど、憂慮すべき状況にあります。

罪種別認知件数においては、窃盗犯が刑法犯認知件数の約8割を占めています。

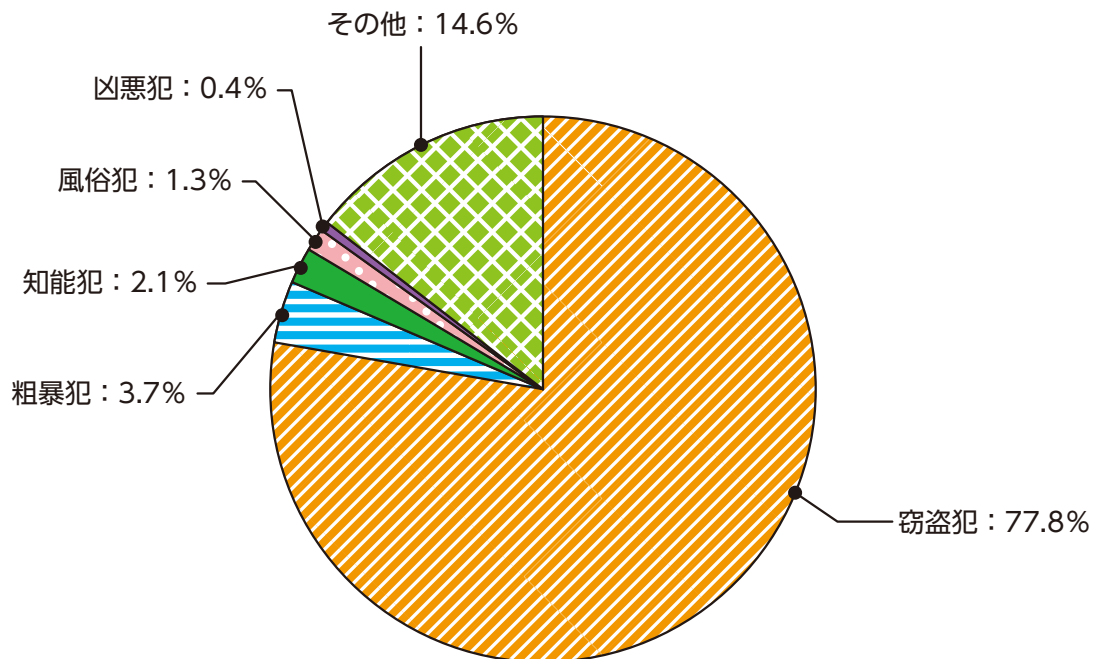
〈図表3〉福岡市における刑法犯認知件数の推移



〈図表4〉政令指定都市の刑法犯認知件数（平成25年）

区分	人口千人当たりの件数	合計	窃盗犯	粗暴犯	知能犯	風俗犯	凶悪犯	その他
1 川崎市	7.78	11,287	8,677	820	442	104	68	1,176
2 浜松市	7.85	6,374	4,647	323	260	50	43	1,051
3 横浜市	8.19	30,323	22,516	2,356	1,261	273	183	3,734
4 静岡市	8.63	6,121	4,666	303	193	43	25	891
5 広島市	8.84	10,472	7,129	696	435	127	84	2,001
6 相模原市	9.03	6,515	5,070	395	227	53	32	738
7 熊本市	9.24	6,830	5,418	441	158	62	23	728
8 新潟市	9.52	7,709	5,551	451	279	47	31	1,350
9 仙台市	9.56	10,231	7,526	540	416	108	44	1,597
10 札幌市	10.02	19,423	12,932	1,005	577	529	109	4,271
11 さいたま市	11.69	14,643	10,942	781	321	139	79	2,381
12 北九州市	12.78	12,372	8,752	704	434	200	95	2,187
13 神戸市	13.03	20,071	14,253	1,446	615	173	106	3,478
14 岡山市	13.27	9,471	7,246	542	267	70	27	1,319
15 京都市	14.44	21,236	16,428	918	531	208	91	3,150
16 千葉市	14.78	14,255	11,199	659	369	84	70	1,874
17 福岡市	15.50	23,399	18,206	868	500	295	105	3,425
18 名古屋市	17.32	39,350	28,973	1,600	958	276	188	7,355
19 大阪市	23.55	63,213	49,016	3,348	2,026	717	505	7,513
20 堺市	24.38	20,507	16,187	617	408	193	102	3,000

〈図表5〉福岡市における刑法犯認知件数の内訳（平成25年）



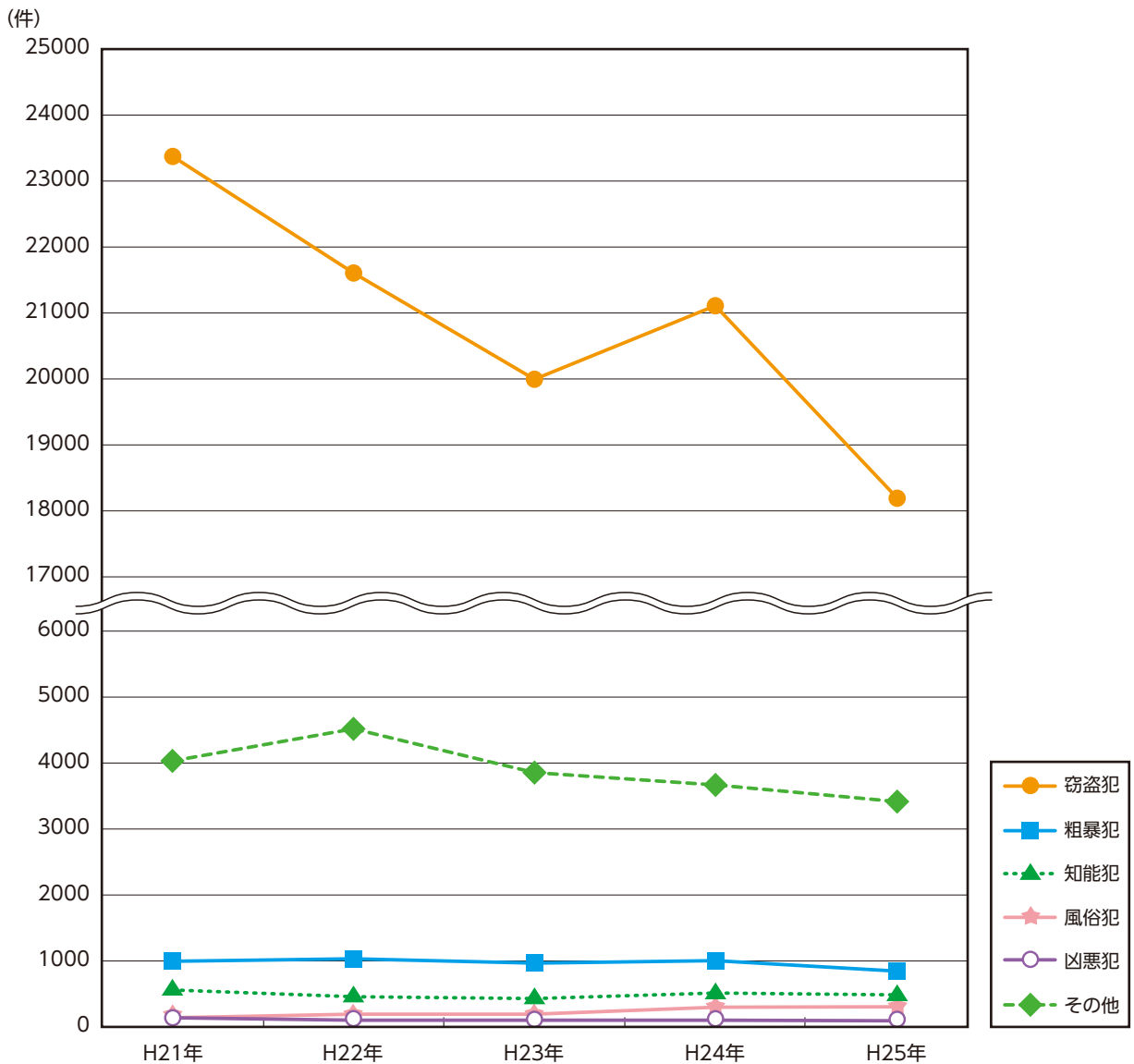
※包括罪種（類似性の強い罪種を包括した分類名称）の内容

包括罪種名	罪種・手口
窃盗犯	住宅侵入窃盗（空き巣、忍込み、居空き）、自転車盗、オートバイ盗、車上ねらい、部品ねらい、自動販売機ねらい、ひったくり、自動車盗など
粗暴犯	凶器準備集合、暴行、傷害・傷害致死、脅迫、恐喝
知能犯	詐欺、横領、通貨偽造、文書偽造など
風俗犯	賭博、強制わいせつ、公然わいせつ、わいせつ物等
凶悪犯	殺人、強盗、放火、強姦
その他	器物破損等、過失傷害、過失致死など

〈図表6〉福岡市における刑法犯（包括罪種別）認知件数の推移

（上段は件数、下段は構成比で％）

区分	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年
総数	29,302	27,974	25,578	26,731	23,399
窃盗犯	23,359 (79.7%)	21,607 (77.2%)	19,979 (78.1%)	21,108 (79.0%)	18,206 (77.8%)
粗暴犯	1,016 (3.5%)	1,042 (3.7%)	980 (3.8%)	1,000 (3.7%)	868 (3.7%)
知能犯	584 (2.0%)	487 (1.7%)	456 (1.8%)	532 (2.0%)	500 (2.1%)
風俗犯	157 (0.5%)	200 (0.7%)	201 (0.8%)	307 (1.1%)	295 (1.3%)
凶悪犯	143 (0.5%)	114 (0.4%)	114 (0.4%)	115 (0.4%)	105 (0.4%)
その他	4,043 (13.8%)	4,524 (16.2%)	3,848 (15.0%)	3,669 (13.7%)	3,425 (14.6%)



3 福岡市における市民生活に身近な犯罪認知件数の推移

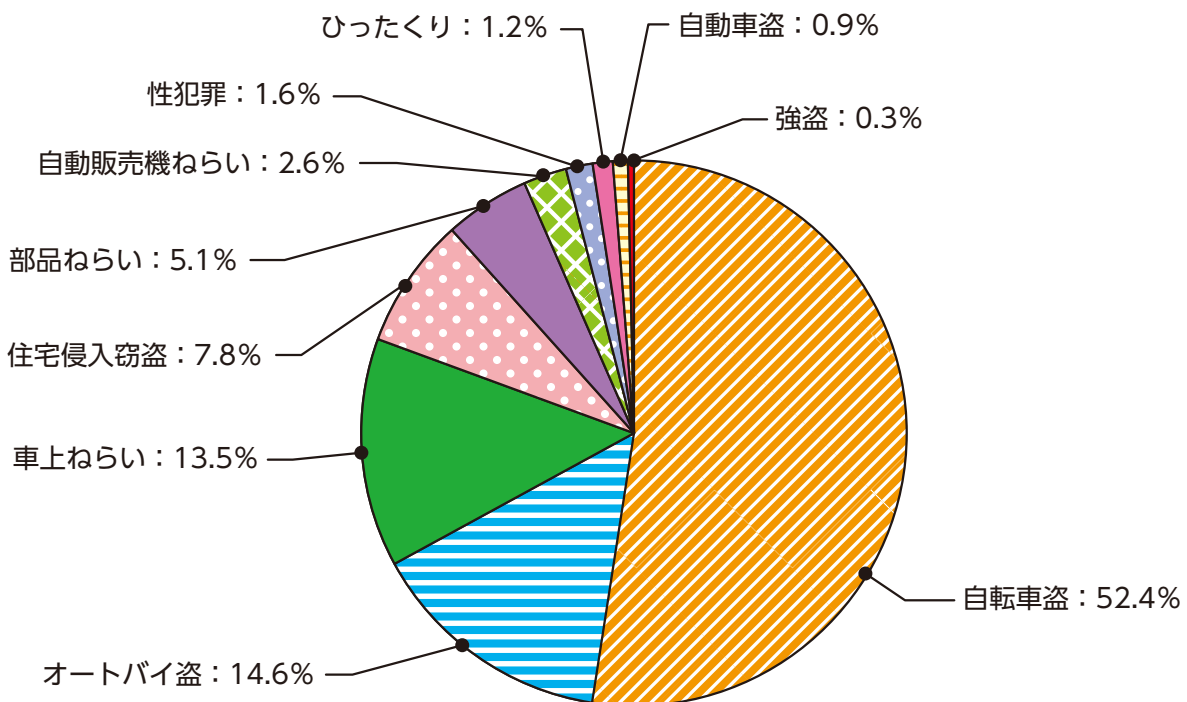
福岡市における市民生活に身近な犯罪について、平成21年から5年間の推移をみると、概ね減少傾向にある中で、自転車盗がほかの犯罪と比べ突出しており、オートバイ盗、車上狙いなども1,000件近くで推移しています。

その中で、自転車盗については、平成25年は平成24年よりも増加しており、性犯罪は、平成25年が直近5年で最も件数が多く、憂慮すべき状況にあります。

※市民生活に身近な犯罪

様々な犯罪の中で、自転車盗やオートバイ盗など身のまわりで発生しやすい犯罪をとりあげたものです。

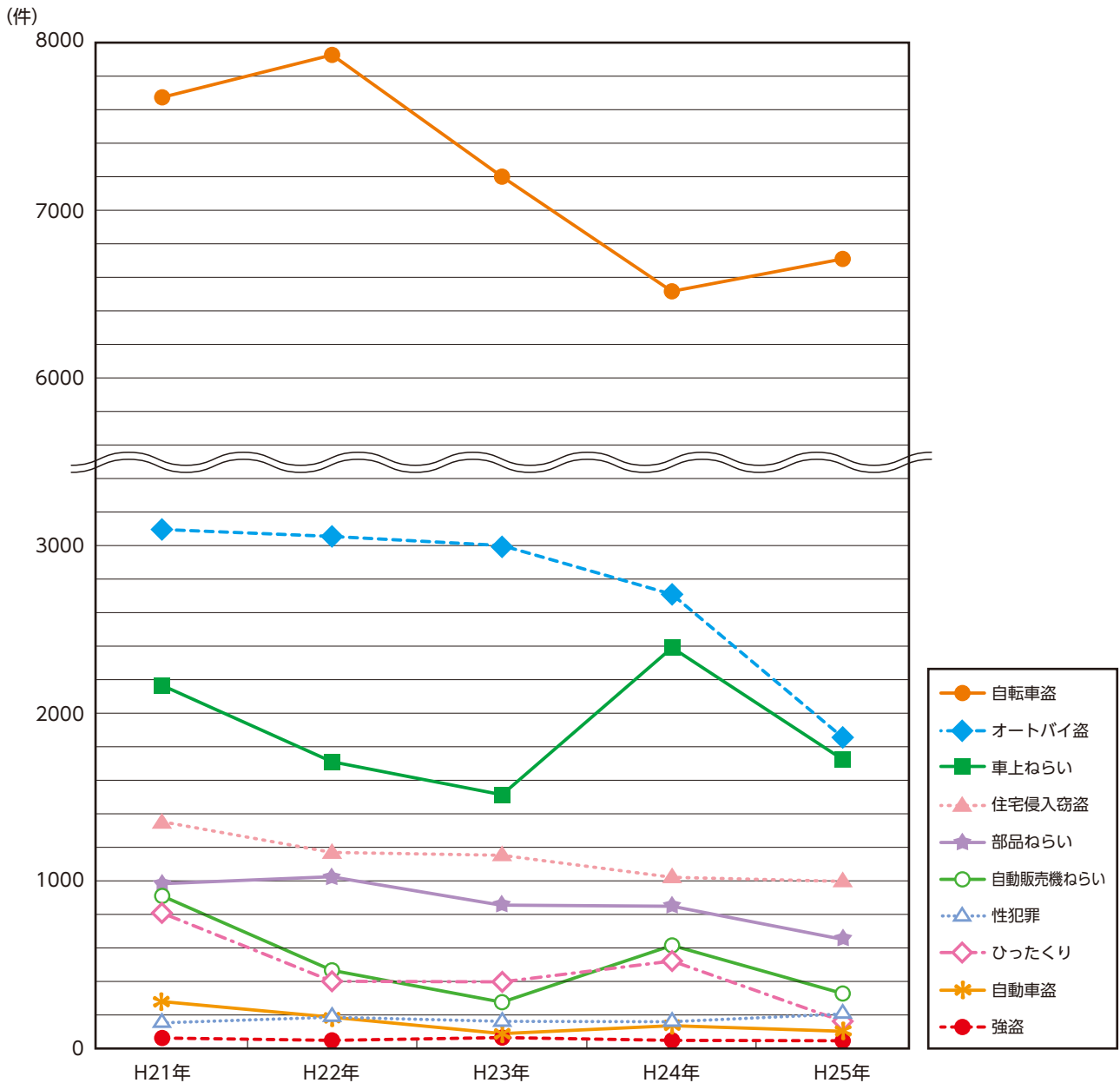
〈図表7〉福岡市における市民生活に身近な犯罪の認知件数の内訳（平成25年）



〈図表8〉福岡市における市民生活に身近な犯罪認知件数の推移

(件)

区分	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年
自転車盗	7,670	7,934	7,202	6,512	6,705
オートバイ盗	3,111	3,067	3,002	2,721	1,869
車上ねらい	2,166	1,705	1,511	2,393	1,728
住宅侵入窃盗	1,351	1,177	1,153	1,024	994
部品ねらい	982	1,016	864	847	649
自動販売機ねらい	918	440	273	602	328
性犯罪	162	181	160	164	200
ひったくり	825	425	390	539	152
自動車盗	269	186	91	137	116
強盗	71	52	70	55	43
合計	17,525	16,183	14,716	14,994	12,784



4 政令指定都市における市民生活に身近な犯罪認知件数の比較

政令指定都市における人口千人当たりの市民生活に身近な犯罪の認知件数を比較すると、ワースト1位の「オートバイ盗」をはじめ、「自転車盗」や「住宅侵入窃盗」などの6つの犯罪手口が、ワースト5位以内に入っています。

〈図表9〉 政令指定都市における人口千人当たりの市民生活に身近な犯罪認知件数のワースト5（平成25年）

(件)

区分	自転車盗		オートバイ盗		車上ねらい		住宅侵入窃盗		自動販売機ねらい		性犯罪	
	市名	千人当たり	市名	千人当たり	市名	千人当たり	市名	千人当たり	市名	千人当たり	市名	千人当たり
1	堺市	6.77	福岡市	1.24	堺市	2.91	名古屋市	1.12	大阪市	0.29	大阪市	0.24
2	大阪市	5.93	堺市	1.06	大阪市	1.92	千葉市	0.76	新潟市	0.24	堺市	0.21
3	福岡市	4.44	神戸市	1.03	名古屋市	1.73	福岡市	0.66	仙台市	0.24	福岡市	0.13
4	岡山市	3.99	京都市	1.03	千葉市	1.16	北九州市	0.65	堺市	0.22	京都市	0.13
5	京都市	3.88	岡山市	0.77	福岡市	1.14	仙台市	0.52	福岡市	0.22	さいたま市	0.11

〈図表10〉 政令指定都市における市民生活に身近な犯罪の認知件数（平成25年）

(件)

区分	人口千人あたりの発生件数	合計	自転車盗	オートバイ盗	車上ねらい	住宅侵入窃盗	部品ねらい	自動販売機ねらい	性犯罪	ひったくり	自動車盗	強盗	
1	浜松市	3.25	2,640	1,327	219	496	234	231	21	45	8	41	18
2	広島市	3.70	4,386	2,736	416	414	405	171	39	106	39	22	38
3	札幌市	3.77	7,313	4,471	204	1,023	690	445	72	142	52	153	61
4	横浜市	4.00	14,833	6,791	1,811	1,359	1,280	1,557	593	211	362	756	113
5	新潟市	4.04	3,270	2,005	55	440	383	98	195	33	11	34	16
6	仙台市	4.04	4,324	2,335	276	509	552	206	252	91	41	40	22
7	静岡市	4.12	2,923	1,816	244	412	146	140	46	35	34	36	14
8	川崎市	4.13	5,984	3,697	694	306	452	299	148	94	138	113	43
9	熊本市	4.54	3,358	1,769	423	610	243	131	67	59	30	20	6
10	相模原市	5.00	3,606	1,981	333	264	339	235	78	45	100	215	16
11	北九州市	5.38	5,212	2,266	637	786	627	367	148	104	134	91	52
12	神戸市	5.44	8,384	3,877	1,591	1,124	517	743	127	146	93	102	64
13	さいたま市	6.04	7,565	4,488	407	779	617	579	136	139	159	235	26
14	岡山市	6.49	4,630	2,850	548	524	349	207	17	36	24	69	6
15	京都市	7.65	11,255	5,700	1,513	1,636	393	1,130	156	189	229	263	46
16	千葉市	7.85	7,568	3,629	538	1,115	736	604	148	75	126	562	35
17	福岡市	8.47	12,784	6,705	1,869	1,728	994	649	328	200	152	116	43
18	名古屋市	8.52	19,354	7,733	1,257	3,932	2,536	1,842	415	243	392	886	118
19	大阪市	10.77	28,900	15,911	1,646	5,156	1,018	2,070	770	647	670	746	266
20	堺市	14.08	11,842	5,691	895	2,449	382	1,524	189	180	128	360	44

5 被害者学識別の刑法犯認知件数（平成25年）

学生等が被害に遭った件数の合計は5,369件となっており、全体の23%を占めています。そのうち、中学生以下の被害については、1,208件となっています。

〈図表11〉被害者学識別の刑法犯認知件数（平成25年）

区分	学生等					有職	無職	その他	合計
	小学生以下	中学生	高校生	大学生	専修学校等				
認知件数(件)	451	757	1,178	2,123	860	11,264	2,482	4,284	23,399
割合	2%	3%	5%	9%	4%	48%	11%	18%	

← 1,208件(5%) →
 ←————— 5,369件(23%) —————→

6 罪種別の発生状況（平成25年）

(1) 自転車盗

施錠の有無別の発生状況をみると、平成25年は無施錠の割合が40%を占めており、過去3年間の無施錠率は年々増加傾向にあります。

また、場所別の発生状況では、駐輪場が52%と過半数を占め、共同住宅が15%となっています。

〈図表12〉施錠の有無別の発生状況

区分	施錠有		施錠無		合計
	認知件数(件)	割合	認知件数(件)	割合	認知件数(件)
H23	4,762	66%	2,440	34%	7,202
H24	4,003	61%	2,509	39%	6,512
H25	4,004	60%	2,701	40%	6,705

〈図表13〉場所別発生状況（平成25年）

区分	一戸建住宅	共同住宅	駐輪場	路上	店舗・商業施設	会社・学校	駅	その他
認知件数(件)	187	1,022	3,520	817	328	104	19	708
割合	3%	15%	52%	12%	5%	2%	0%	11%

施錠の有無別の発生状況では、施錠有の自転車も60%台で推移していること〈図表12〉や、場所別発生状況では、駐輪場が過半数を占めていること〈図表13〉から、盗難を防止するためには、購入時についている鍵だけではなく、ワイヤー錠など補助錠を使い二重ロックをかけることが有効です。

(2) オートバイ盗

場所別の発生状況では、駐輪場が47%、共同住宅が21%となっています。
また、検挙人員の96%が少年となっています。

〈図表14〉 場所別発生状況（平成25年）

区 分	一戸建住宅	共同住宅	駐輪場	駐車場	路 上	店舗・商業施設	会社・学校	その他	合 計
認知件数(件)	68	390	870	188	103	64	18	168	1,869
割 合	4%	21%	47%	10%	6%	3%	1%	9%	

〈図表15〉 検挙の内訳（平成25年）

区 分	少 年	成 人
検挙人員(人)	109	4
割 合	96%	4%

(3) 住宅侵入窃盗

住宅別の発生状況では、共同住宅での発生が69%を占め、中でも、1人世帯での発生が49%となっています。

被害者年齢別では、20歳代が32%、60歳以上が26%を占めます。

侵入手口別では、無施錠が42%、ガラス破りが33%となっています。

〈図表16〉 住宅別発生状況（平成25年）

区 分	1戸建			共同住宅			
	1人世帯	2人以上	計	1人世帯	2人以上	法人・団体等	計
認知件数(件)	79	225	304	490	197	3	690
割 合	8%	23%	31%	49%	20%	0%	69%

〈図表17〉 住宅侵入窃盗の被害者年齢別の発生状況（平成25年）

区 分	13歳未満	13～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合 計
認知件数(件)	0	35	315	174	126	85	259	994
割 合	—	4%	32%	18%	13%	9%	26%	

〈図表18〉 住宅侵入窃盗の手口別発生状況（平成25年）

区 分	無施錠	ガラス破り	その他	合 計
認知件数(件)	415	324	255	994
割 合	42%	33%	26%	

(4) 性犯罪

被害者年齢別の発生状況では、20歳代が最も多く45%、次に13～19歳が28%を占めています。場所別の発生状況では、住宅が35%となっており、道路上での発生が32%となっています。

〈図表19〉被害者年齢別の発生状況（平成25年）

区分	13歳未満	13～19歳	20～29歳	30～39歳	40歳以上	合計
認知件数(件)	25	55	89	22	9	200
割合	13%	28%	45%	11%	5%	

〈図表20〉場所別発生状況（平成25年）

区分	住宅	駐車場等	道路上	その他	合計
認知件数(件)	69	29	64	38	200
割合	35%	15%	32%	19%	

(5) ひったくり

ひったくりの被害者は、女性が84%を占めています。

〈図表21〉ひったくりの男女別の発生状況（平成25年）

区分	男性	女性	合計
認知件数(件)	25	127	152
割合	16%	84%	

(6) ニセ電話詐欺

福岡市におけるニセ電話詐欺は平成24年に比べて増加傾向にあり、いずれの年も高齢者が過半数を占めています。

〈図表22〉ニセ電話詐欺の発生状況（平成25年）

区分	男性			女性			合計		
	高齢者	高齢者の割合		高齢者	高齢者の割合		高齢者	高齢者の割合	
H24(件)	10	4	40%	46	28	61%	56	32	57%
H25(件)	21	7	33%	42	27	64%	63	34	54%

7 各区別の発生状況（平成25年）

商業施設や事業所等が集中している中央区、博多区（都心部）での刑法犯認知件数が多く、また、犯罪発生率（人口千人当たりの刑法犯認知件数）も高くなっています。

城南区は、市民生活に身近な犯罪の発生率が高く、特に自転車盗・オートバイ盗、住宅侵入窃盗の発生率が高くなっており、大学などの学生を対象とした犯罪が多く発生しているものと思われます。

〈図表23〉各区分の刑法犯の発生状況（平成25年）

区 分	東 区	博多区	中央区	南 区	城南区	早良区	西 区	全 市
人口千人当たり発生件数(件)	15.4	21.4	23.4	12.4	13.6	11.5	11.1	15.5
刑法犯認知件数(件)	4,645	4,762	4,391	3,150	1,755	2,465	2,231	23,399

〈図表24〉各区分の市民生活に身近な犯罪の発生状況（平成25年）

区 分	東 区	博多区	中央区	南 区	城南区	早良区	西 区	全 市
人口千人当たり発生件数(件)	8.8	10.9	10.9	7.4	8.9	6.6	6.1	8.5
市民生活に身近な犯罪認知件数(件)	2,657	2,423	2,046	1,861	1,225	1,148	1,424	12,784

8 都心部等における犯罪の発生状況（平成25年）

(1) 都心部における刑法犯認知件数の発生状況

都心部（天神周辺地区、博多駅周辺地区）で犯罪発生率が高くなっています。

〈図表25〉人口千人当たりの刑法犯の発生件数（平成25年）

区 分	天神周辺地区	博多駅周辺地区	全 市
人口千人当たり発生件数(件)	64.3	48.5	15.5

(2) 都心部及び大学周辺地区における自転車盗・オートバイ盗の発生状況

都心部・大学周辺地区で自転車盗・オートバイ盗の発生率が高くなっています。

〈図表26〉人口千人当たりの自転車・オートバイ盗の発生件数（平成25年）

区 分	天神周辺地区	博多駅周辺地区	大学周辺地区	全 市
人口千人当たり発生件数(件)	17.6	14.1	14.2	5.7

※大学周辺地区とは、人口千人当たりにおける校区別の自転車盗・オートバイ盗の合計件数において、ワースト上位10位以内にあり、かつ大学が立地する校区及びその校区に隣接する校区をまとめたもの

9 少年非行の状況（平成25年）

刑法犯の検挙補導人員をみると、成人を含めた刑法犯の検挙補導人員の25.0%が少年であり、特に、窃盗犯では28.8%を占めています。未成年者の検挙補導人員のうち、年齢別では14歳以上が93%を占め、学職別では中学生・高校生が68%を占めています。

14歳以上の刑法犯少年に占める再犯者の割合は30.9%を占めており、福岡県や北九州市よりも低くなっていますが、平成21年から平成24年の間は、福岡県よりも高く推移しています。

〈図表27〉 刑法犯の検挙補導人員（平成25年）

区 分	合 計	罪 種 別 内 訳					
		凶悪犯	粗暴犯	窃盗犯	知能犯	風俗犯	その他
総 数 (人)	4,132	77	754	1,775	188	113	1,225
成人	3,099	71	659	1,263	180	106	820
少年	1,033	6	95	512	8	7	405
少年の割合	25.0%	7.8%	12.6%	28.8%	4.3%	6.2%	33.1%

※福岡市内に所在する警察署が検挙補導した人員の集計

〈図表28〉 年齢別の検挙補導人員（平成25年）

区 分	13歳以下	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳
検挙補導人員(人)	74	171	203	238	128	110	119
割 合	7%	16%	19%	23%	12%	11%	11%

※福岡市内で検挙補導した人員の集計

〈図表29〉 学職別の検挙補導人員（平成25年）

区 分	小学生	中学生	高校生	大学生	他学生	有職少年	無職少年
検 挙 補 導 人 員 (人)	10	327	385	59	52	97	113
割 合	1%	31%	37%	6%	5%	9%	11%
(参考)北九州市における割合	4%	46%	27%	2%	1%	10%	10%

※福岡市内で検挙補導した人員の集計

〈図表30〉 再犯者率〈14歳以上の刑法犯少年に占める再犯者の割合〉（平成25年）

区 分	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年
県 合 計	36.6%	34.5%	36.8%	36.8%	35.1%
福 岡 市	38.2%	34.5%	39.0%	42.0%	30.9%
北 九 州 市	41.5%	40.6%	39.2%	39.3%	38.1%

10 全国のサイバー犯罪における検挙件数の推移

情報通信技術の発展に伴うインターネット利用の拡大等により、サイバー犯罪は全国的に増加傾向にあります。

〈図表31〉 全国のサイバー犯罪における検挙件数

区 分	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年
不正アクセス禁止法違反(件)	2,534	1,601	248	543	980
コンピュータ・電磁的記録対象犯罪(件)	195	133	105	178	478
ネットワーク利用犯罪(件)	3,961	5,199	5,388	6,613	6,655
合 計 (件)	6,690	6,933	5,741	7,334	8,113